

会報 安曇野教育

第 68 号

発行所 安曇野市教育会
発行人 丸山 広樹
編集 会報委員会

発行日 令和 2 年 12 月 16 日
題字 川田 殖

教師としての誇りや喜びを共有できる教育会

常任委員長 内川 雅信



私の父は、今年でもう 93 歳になります。先日、来年の 3 月でいよいよ定年だということを話題にすると「もうそんなになるかなあ」と非常に感慨深げでした。

そうした父の姿を見ていたらなんだか感謝の気持ちを伝えたくて、「私が教師になれたこと、そしてこうして定年まで曲がりなりにも一生懸命やって

こられたのは、あなたの教師としての姿を見てきたおかげです。ありがとう」と伝えました。

私が小学生の頃、父の帰りはいつも遅く、平日は夕飯を一緒に食べることはあまりありませんでした。冬になると、父の夕飯となる井のせいでこたつの真ん中の布団がいつも盛り上がっていました。また、信濃教育会誌や読み合わせの書物等を音読していたり、休みの日も家でゴリゴリとガリ版で何か書いていたりした様子が今でも目に浮かびます。

子どもの目から見ても大変な仕事だなあと感じました。そんななかでも、父は私たちに自分の学校をよく自慢し、生徒のことを嬉しそうに話しました。だから私は母と一緒に「お父さんは幸せだね、自分が行く学校はみんないい学校なんだから」と父を茶化したことをよく覚えています。私がそんな父の姿から感じていたのは、多忙であること以上に、父が教師という仕事に誇りや喜びをもっているということだったのだと思います。

教師が多忙であることや様々な批判や無理難題に直面しなければならない等々で、教職を目指す若者が減っていることが危惧されています。学校で働くという仕事のよさを見出しにくくなっている現在、教育会に求められるものは何でしょうか。教師はあれもこれもやらなければならない、かくあるべし等をいくら並べても、本当に実のある研修の場になるでしょうか。

学校現場で働くことに希望や元気がわいてくるような研修の場、また私が父の姿から感じ取ったように、教師としての誇りや喜びを持っている先人や仲間と出会える場としての教育会が求められるのではないのでしょうか。

安曇野教育 郷土文化財 48

「トカゲとカヤツリ草図」 山口蒼輪

堀金村の出身で、日本美術学校（現日本美術専門学校）において古画・装飾画の模写研究を始め、自然描写に魂を打ち込んで勉強し、戦後中信地区や全県の日本画の発展のために尽した山口 蒼輪の作品です。自然を新しい感覚でとらえ、大胆な空間処理、精緻な写実を行うことによって独得な画風を表現しています。トカゲはこの絵



の隅に描かれていますが、カヤツリ草と同じように存在感を感じます。(郷土文化財センター運営委員会)



校長室の壁にある額には、「寺ニ大小アレドモ住持ニ大小ナシ」とあります。山間僻地の教育の大切さを語るたびに、よく用いられる言葉です。この言葉の重みを毎日かみしめています。

本校は、本年度全校児童が8名です。平成の初めからこのくらい的人数で推移しています。さらに昨年度の卒業生をもって、地元生まれの地元育ちの子どもがいなくなりました。

全員が親子山村留学で本校に来た子どもたちです。移住者もあれば、地元(他県)に父親がいて、母親と本人でこちらに来ているという形のお宅もあります。下伊那には、このような留学をそれぞれの市町村や学校で行っているところがたくさんあります。本校は、保護者を中心にした「親子山村留学実行委員会」があり、町教委と協力して留学を進めています。しかし、留学のお家の方々だけでなく、和合地区全世帯がPTAに加入していて、いつも学校を支えてくださいます。

本年度は、コロナでの休校時、そしてそれ以外にも「子どもが学校で学ぶことが当たり前ではないのではないのか」と考える場面いくつか出会いました。「学校はこれでいいのか」と悩むこともありました。しかし、子どもたちは、少人数で私たちともたくさん対話ができるからでしょうか。例えば、全校道徳をしていて、「先生、道徳って資料を読んでいじめはいけないとか考えればいいのかな」(5年生)などと、直接私たちのありさまについてきてくれます。このようなことがあるたびに、「今この子どもたちや和合の地域の方々の、ありのままの姿や語られる言葉を柔らかく受け止め、見返している私たちですか」と問いをもらっている気がします。極小規模の学校は、直接このような問いをいただける所であるのが、とてもいいなと思っています。もしかしたらこれが「住持ニ大小ナシ」なのかもしれません。



寺ニ大小アレドモ…

阿南町立和合小学校

校長 堀金 猛



「つながり」と「ひろがり」

長野県教育委員会事務局
南信教育事務所

指導主事 宮下 卓也



伊那市にある南信教育事務所学校教育課に勤務して2年目になります。学校訪問では、先生方と一緒に「授業づくりの重点を他学年や他教科でも共有する授業」、「係の先生が主体となり運営する校内研修」をつくりたいと願い、

当日やその前後に訪問させていただいています。

7月初旬、ある小学校で研究主任の先生が3年生社会科の授業を公開しました。「家ではごみをどのように出しているのだろう」について、子どもたちが「情報を収集し、考えを比べる」という段階に応じて対話する姿がありました。学校研究テーマ「つたえる」の実現のために、対話の段階を意識し授業をつくるという重点が「先生方にひろがる」授業研究会となりました。

別の小学校ではICT担当の先生がプログラミング教育校内研修会を開きました。昨年度校内で行われた6年生理科の授業「信号機はどんなプログラムで動いているのだろう」について、プログラム技能ではなく思考を大切にしていた良さが改めて紹介されました。プログラミング体験の場も設けられ、参加した先生方から、取組への見通しがもてたという感想がICT担当の先生に寄せられました。実践していこうとする気持ちで「先生方がつながる」校内研修となりました。

コロナ禍でも、先生方自身が学び続け、校内での「つながり」と「ひろがり」をつくり出し、子どもたちの学びを支えようとされています。先生方の思いや願いを伺い、一緒に考えさせていただくことが私の務めだと思います。今後も研鑽を重ねてまいります。

講師として4年、初任校として4年を過ごした安曇野市を離れ、4年目となりました。昨年度までは飯田市立座光寺小学校に在籍し、今年度からは長野市立信州新町小学校でお世話になっております。座光寺小学校での3年間、そして信州新町小学校での1年を振り返ると、安曇野市での出会いや経験が私の礎となっていると感じます。

座光寺小学校では単級のクラスを4年生、5年生、6年生と担当させていただきました。同学年に他に先生がいないという状況が初めてで、不安な思いが強い中、当時の同僚はもちろんですが、安曇野で出会った先生方に教えていただいたことが私の支えとなりました。3年間で様々なことに取り組ませていただき、特に子どもたちと楽しむことができたと感じるのが「陸上競技」と「合唱」です。どちらも講師としてお世話になった豊科北小学校で、盛んに行われていた活動です。豊科北小で私は陸上部の顧問の一人として子どもたちと活動していましたが、結果を出すことを重視し過ぎていました。その北小を離れる時に先輩先生から言われた「陸上を好きな子を育てよう」という言葉を受けて、練習内容や子どもたちとの接し方が変化したように思います。おかげで、子どもたちが主体的に取り組むようになってきて、大会でも結果を残すことができました。

そして信州新町小学校では現在、研究主任を務めさせていただいております。校内で授業研究を進める中、私が授業を考える上で、基本となっているのが、初任校の三郷小で同じ学年だった先生の授業です。子どもたちが意欲的に、そして仲間と共に学んでいく授業。そんな授業を目指し続けていきます。

私の宝～安曇野での出会い～

長野市立信州新町小学校

教諭 滝沢 翔太



笑顔集う学校で

中野市立豊井小学校

教頭 北原 勉



私が勤める豊井小学校は、中野市の西部、旧豊田村にあります。校舎のすぐ東には豊かな水を育む千曲川が流れ、北には高社山を臨む自然豊かな中にある学校です。高野辰之先生の作詞の校歌や、浅井冽先生の作詞の開校記念の歌があり、それぞれ

の歌詞からは開校当時の地域や保護者、職員の方々の学校への願いや期待の大きさを今も感じることができます。

本校は今年度をもって閉校になります。明治33年豊井尋常小学校として開校（開校式は35年）して以来、118年の歴史に幕を下ろす大切な年を迎えています。昨年度から、保護者や地域の方とともに閉校記念事業実行委員会を立ち上げ、様々な行事を企画してきました。いざ実行という今年度でしたが、新型コロナウイルスの関係で、諸々の関係行事が延期され、そのほとんど全てを2学期に行うという実に慌ただしい2学期になりました。

さて、赴任して2年目の私。毎朝20分ほど昇降口に立ち、登校してくる子どもたちを迎えるのが私の日課です。全校90名余りの児童ですので、子どもたちの顔も名前もよくわかります。「〇〇さん、おはよう。今日は寒いね。」「うん、手がすごく冷たいよ。先生触ってみてよ。」何人もの子どもたちとこのような何気ない会話をすることが、実は私の一日のエネルギーを充電している時間なのだ気づきました。子どもたちの笑顔に元気づけられる日々の中で、この子どもたちの笑顔が集う学校であり続けるために、自分には何ができるのかと問い直す毎日です。



東西南北

「学校の歴史を調べる」

赴任して一年目。学校の歴史を調べる時間をつくろうと思っけていても、なかなか時間をつくれないうのですが、この時間を子どもたちがつくってくれました。なぜなら、三年生が総合の時間に「学校の歴史」をテーマに校長室を度々訪れ、調べに来たからです。

最初は子どもたちの質問攻めで困りました。「学校ができて何年目か」、「校歌はどんな意味で作曲した人はどんな人か」、「先生は何代目の校長先生か」等々様々な疑問をもって訪れます。答えられないものは記念誌や学校要覧等から探して、共に調べました。調べていくうちに、「学校を造るために多くのお金や土地の寄付があった」、「かつて二泊三日で修学旅行を行っていた」、「六十分授業をしていた時があった」など、テーマとは違うこともわかってきました。

おかげさまで来客の時に少し学校の歴史が語れるようになりましたし、それ以上に自分の視野が広がり、学校の見方が変わりました。子どもたちに感謝です。

(穂高南小)



保健体育同好会

同好会 研修日報告

11月4日の研修の日を中心に、11の同好会、185名の参加で研修が行われました。コロナ禍ということで開催を見合わせた同好会もありましたが、同じ方向に学びを求めた仲間が集い、研修する機会をもてたことをうれしく思います。各研修は下記のような内容で行われ、中心になってすすめてくださった各同好会の幹事さんからは、「単元展開や指導案について検討した。先生方に幅広い視点から意見をいただき、授業づくりの参考となった。来年度の研究にもつなげていきたい」「今年度初めて同好会全体で集まることができ、有意義な時間となりました」「日々の実践に関わる情報交換等が活発に行われとても良かった」等の感想が寄せられました。

くりの参考となった。来年度の研究にもつなげていきたい」「今年度初めて同好会全体で集まることができ、有意義な時間となりました」「日々の実践に関わる情報交換等が活発に行われとても良かった」等の感想が寄せられました。

<研修会を実施した同好会と内容>

国語	R3長野県国語教育研究協議会（安曇野大会）に向けての授業づくり	
社会	令和3年度信州社県安曇野大会に向けて	学校保健同好会
理科	信州理研安曇野大会(令和3年度)に向けた授業づくり	
図工・美術	県児童生徒美術展 地区審査 (10/22(木)実施)	
保健体育	Let's Enjoy! 体づくり運動	
技術・家庭	県ものづくりフェア出展作品選考会	
道徳	道徳の悩み解決	
教育相談	行動教育～マイナーメジャー・登校支援・特別支援の紹介と検討2	
情報教育	ICT活用報告をし合おう&Zoomとデジタルビデオカメラを繋いでみよう	
学校保健	保健室で、すこ楽ストレッチ	
生活・総合	コロナ禍での生活科・総合の実践は…	

(文責：幹事 山口)

<編集後記>

今回は県内各地に赴任されている先生方にご寄稿いただき、それぞれのご活躍の様子をお伝えしました。懐かしい先生方を近くに感じていただける時間となれば幸いです。

コロナに始まりコロナで終わる2020年。「通常通り」「無事」がいかにありがたいことか痛感する1年でもありました。来年こそは明るく希望の持てる年になることを祈っております。皆様、よいお年をお迎えください。